

栄養・摂食嚥下に関する情報

記載日 (年 月 日)

記載者 ()

摂食嚥下に最も影響する疾患 :

栄養状態と必要栄養量

身長 () cm 体重 () kg BMI ()

必要エネルギー量 () kcal 必要水分量 () ml

必要たんぱく質量 () g

食事形態

■主食 (ゼリー・ペースト状の粥 (酵素入・酵素無)・全粥・軟飯・米飯)

学会分類 (0j・0t・1j・2-1・2-2・3・4)

■副食 (ゼリー・ペースト・ソフト食・刻み菜 (大きさ))・軟菜・普通菜)

学会分類 (0j・0t・1j・2-1・2-2・3・4)

■栄養補助食品 () 1日量 ()

■水分 (ゼリー・とろみ付き・とろみなし) とろみ 濃・中間・薄

溶液 () ml に、とろみ調整食品 () を () g

提供までの時間 () 分

■経管栄養 経鼻胃管 胃ろう その他 ()

	栄養剤の種類	栄養剤の量ml	白湯の量ml
朝			
昼			
夕			

食事の介助 自力摂取・見守り・一部介助・全介助

口腔の状態 ■義歯 (無・有・あるが使用していない)

義歯を入れても歯のない所がある

食事の姿勢

■座位・ベッドアップ () 度 ■体幹 正中・側臥位 (右・左)

■顔の向き : 正中・右向き・左向き

■ベッド上・リクライニング車椅子・車椅子・椅子・その他 ()

摂食時にしていること

食前ののどのアイスマッサージ 交互嚥下 (ゼリー・トロミ)

吸痰 (食前・食後) 口腔ケア (食前・食後) その他 ()

リハビリ内容

嚥下おでこ体操 頭部挙上訓練 ブローイング 発声練習

その他 ()

※日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2013

コード	形態	目的・特色	主食の例
0j	均質で、附着性・凝集性・かたさに配慮したゼリー 離水が少なく、スライス状にすくうことが可能なもの	重度の症例に対する評価・訓練用。少量をすくってそのまま丸呑み可能。残留した場合にも吸引が容易。たんぱく質含有量が少ない。	
0t	均質で、附着性・凝集性・かたさに配慮したろみ水	重度の症例に対する評価・訓練用。少量ずつ飲むことを想定。ゼリー丸呑みで誤嚥したりゼリーが口中で溶けてしまう場合、たんぱく質含有量が少ない。	
1j	均質で、附着性、凝集性、かたさ、離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの	口腔外で既に適切な食塊状となっている (少量をすくってそのまま丸呑み可能)。送り込む際に多少意識して口蓋に舌を押しつける必要がある。0j に比し表面のざらつきあり。	おもゆゼリー、ミキサー粥のゼリー など
2-1	ビュール・ペースト・ミキサー食など、均質でなめらかで、べたつかず、まとまりやすいもの。スプーンですくって食べることが可能なもの。	口腔内の簡単な操作で食塊状となるもの (咽頭では残留、誤嚥をしにくいように配慮したもの)	粒がなく、附着性の低いペースト状のおもゆや粥
2-2	ビュール・ペースト・ミキサー食などで、べたつかず、まとまりやすいもので不均質なものを含む。スプーンですくって食べることが可能なもの。		やや不均質 (粒がある) でもやわらかく、離水もなく附着性も低い粥類
3	形はあるが、押しつぶしが容易、食塊形成や移送が容易、咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの。多量の離水がない。	舌と口蓋間で押しつぶしが可能なもの。押しつぶしや送り込みの口腔操作を要し (あるいはそれらの機能を賦活し)、かつ誤嚥のリスク軽減に配慮がなされているもの。	離水に配慮した粥 など
4	かたさ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないもの。箸やスプーンで切れるやわらかさ。	誤嚥と窒息のリスクを配慮して素材と調理方法を選んだもの。歯がなくても対応可能だが、上下の歯槽堤間で押しつぶすあるいはすりつぶすことが必要で舌と口蓋間で押しつぶすことは困難。	軟飯・全粥 など

※※学会とろみ分類

	薄いとろみ	中間のとろみ	濃いとろみ
性状の説明 (飲んだとき)	「drink」するという表現が適切なとろみの程度。口に入れると口腔内に広がる液体の種類・味や温度によっては、とろみが付いていることがあまり気にならない場合もある。飲み込む際に大きな力を要しない。ストローで容易に吸うことができる。	明らかにとろみがあることを感じがありかつ、「drink」するという表現が適切なとろみの程度。口腔内での動態はゆっくりですが広がらない。舌の上でまとめやすい。ストローで吸うのは抵抗がある。	明らかにとろみが付いていて、まとまりがよい。送り込むのに力が必要。スプーンで「eat」するという表現が適切なとろみの程度。ストローで吸うことは困難。
性状の説明 (見たとき)	スプーンを傾けるとすずと流れ落ちる。フォークの歯の間から素早く流れ落ちる。カップを傾け、流れ出した後には、うっすらと跡が残る程度の付着。	スプーンを傾けるととろとろと流れる。フォークの歯の間からゆっくりと流れ落ちる。カップを傾け、流れ出した後には、全体にコーティングしたように付着。	スプーンを傾けても、形状がある程度保たれ、流れにくい。フォークの歯の間から流れ出ない。カップを傾けても流れ出ない (ゆっくりと塊になって落ちる)。